

平成22年度産学イノベーション加速事業 【先端計測分析技術・機器開発】 について

平成22年4月21日
科学技術振興機構
産学基礎基盤推進部(先端計測担当)

1. 平成22年度の運営基本方針について

平成22年度は事業を継続し、優れた成果を出し、これを実用化していくためには、予算の縮減など厳しい状況の中でも新規課題の採択が必要不可欠。さらに成果のPRも重要。このため、以下のことを実施。

(1) 継続課題については、進捗・評価等を踏まえて開発費を査定

(2) 新規課題については、各プログラムとも厳選して採択

- ・「プロトタイプ実証・実用化プログラム」を含め4プログラムを同時に2月25日から4月7日まで公募、10月から開発開始。
- ・「プロトタイプ実証・実用化プログラム」では、申請に際して「基本特許」の記載を義務づけるとともに、審査にあたり、特許調査を実施。
- ・「ソフトウェア開発プログラム」の申請に際しては、開発チームに「ソフトウェア開発を行う企業」(システム開発実施企業、ソフトハウス等)の参画を義務化。

(3) 広報・普及活動等の効果的・効率的な実施

2. 具体的措置

(1) 継続課題の推進について

既存課題の開発費については、本年度予算を勘案して課題平均で約2割減の査定をした。査定にあたっては、開発総括の主導により各課題の進捗状況等を踏まえてメリハリをつけて実施した。

(2) 新規課題の採択について

今回の応募件数は4プログラム合わせて240件(前年度284件)であった。新規採択課題の選考にあたっては、評価委員会で検討した採択方針に基づき厳選するが、予算の範囲内で出来るだけ課題数(十数課題を予定)を確保したい。

(3) 成果普及活動等について

(a) 専門家・ユーザー等への成果普及活動

- ・ 経費をおさえつつ、より効果的な展示会(2010分析展、BioJapanを予定)に出展するとともに成果報告会もあわせて実施予定。
- ・ 各展示会については、JST産学連携事業と共同出展を検討。
- ・ 学協会等との連携の観点から、「日本分析化学会」年会等において成果報告会を開催することを検討中。
- ・ 成果集を昨年度に引き続き作成し、展示会等で配布するとともに、ホームページに掲載。

(b) 国民・社会一般への周知広報活動

- ・ 科学機器の専門家ではない社会人の方等へ、広く事業の内容を周知するため、昨年度は広報用DVDを作成し、本内容はサイエンスチャンネル* で放映。平成22年度も作成を検討中。

* サイエンスチャンネル(<http://sc-smn.jst.go.jp/>)

JSTの科学ネットワーク部が運営する科学専門番組。ケーブルテレビやインターネット放送で提供。

- ・ 広報・ポータル部と連携し、「JSTレクチャー会」(新聞社論説委員向け)の開催を検討。
- ・ ホームページ(<http://www.jst.go.jp/sentan/>)において、本事業の成果等を適宜掲載する。
- ・ JSTニュース(機関誌)において、本事業の成果等を適宜掲載する。昨年度は2回掲載(藤井、百生T)。
- ・ 成果等のプレス発表も機関と共同で積極的に行う。昨年度は1回(北大平田T)と、「科学新聞」取材記事が3回掲載された(瀬藤、福山、藤井T)。さらに、百生Tの成果について取材を受け、日経産業新聞(3/31の1面)に掲載された。
- ・ 教育委員会と連携した取り組みも一部実施予定(教育用計測機器)。

(c) 企業とのマッチング推進

- ・ 平成22年度は、産学連携展開部と連携し、特に要素技術プログラムの課題を中心に「新技術説明会」において民間企業に呼びかける予定。
- ・ 未利用特許の有効活用を促進するため、産学連携展開部が提供しているJ-STORE(<http://jstore.jst.go.jp/>)の機能を最大限活用し、公開特許情報の掲載等、研究開発成果についての情報発信等を強化する。
- ・ 「科学技術コモンズ」との連携も模索。

(d) 研究現場のニーズ把握の促進

- ・ 研究基盤の強化に向け、研究開発戦略センターと連携し、最新の研究動向とそのための分析・計測技術のニーズ把握を促進。
- ・ 技術動向の把握に向け、知的財産戦略センターと連携し、特定の開発課題について特許マップを試作することを検討。

(4) その他

(a) 「先端計測分析技術・機器開発のあり方検討委員会」をJST内に設置


- ・ 開発成果の社会的貢献度の定量化の検討や普及・広報活動の在り方、事業運営などに関して議論する予定。4/12に第1回を開催したところ。

(b) 「産学イノベーション加速事業」としての連携強化

- ・ 戦略的イノベーション創出推進、産学共創基礎基盤研究の担当部と定期的な打ち合わせ等を予定。

3. 今後のスケジュール(予定)

	平成22年度												
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
開発課題の実施 状況の把握			サイトビジットなどによる実施状況の把握、 展示会・公開シンポジウムの開催等										
				2010分析展 (9/1-3) ◆		◆Bio Japan2010 (9/29-10/1)				Pittcon2011 ◆ (3/13-18)			
開発実施計画書				(新規課題)計画書作成、 委託契約締結						(継続課題)計画書作成、 委託契約締結			
公募・選考 (事前評価)	書類選考、面接選考等										H23採択課題公募 (H23.2月～4月)		
	H22採択課題公募 (H22.2月～4月)										H23採択課題公募 (H23.2月～4月)		
事後評価 <H21終了> 25課題		書類査読・現地調査等											
中間評価 49課題予定 (要素22、機器15 ソフト12)					書類査読・現地調査等								

 : 開発推進活動

 : 評価活動